

液晶プロジェクター—30年

編集人 吉田英生 (S53/1978卒)

今から30年前の1991年1月17日(木)曇りのち雨、湾岸戦争が始まった日、私は東京駅6:36発の「のぞみ」で京都に向かっていました(日記より)。指定席は取ったものの、大きなジュラルミン製の箱を脇におくスペースがなく、やむを得ず京都駅に着くまでデッキに立っていました。向かう先は京大会館(現在の京都大学文書保存館 <http://kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/ja/>)。というのも、当時「エネルギー変換と高効率利用、研究代表者: 西川禎一京大教授(1987-1992、次ページに組織図)」で、A班、B班、C班、D班が全国組織され、私はD班班長の越後亮三東工大教授の研究室に所属していたため、D班幹事として年に一度の合同研究発表会の会場準備・運営に当たったのです。

ジュラルミンの箱の中は液晶プロジェクター、電話帳で都内のレンタルショップを探して八王子にようやく見つけたM店で、都内から車で甲州街道を2時間かけて往復して借りたものでした。1990年ごろ、それまでのプレゼンテーション用ツールであったスライド映写機やOHP (overhead projector) に替わるものとして液晶プロジェクター (https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieiej/33/12/33_893/pdf-char/en) が出回り始めたばかりで、大学にもまだほとんどなかったのです。といっても、このプロジェクターを借りた目的はビデオ映写のためでした。そのビデオが京大会館のスクリーンに大きく映し出されたとき「ええもんができましたなあ♪」という声が聞かれました。



世界初の液晶映像プロジェクター (1989) https://corporate.jp.sharp/info/history/only_one/

その後、Microsoft PowerPointと組み合わせて誰もがプレゼンテーションするようになったのは2000年以降と記憶します。昨年はzoomなどによるリモート・プレゼンテーションが当たり前になりました。30年後はどのようになっているのでしょうか？

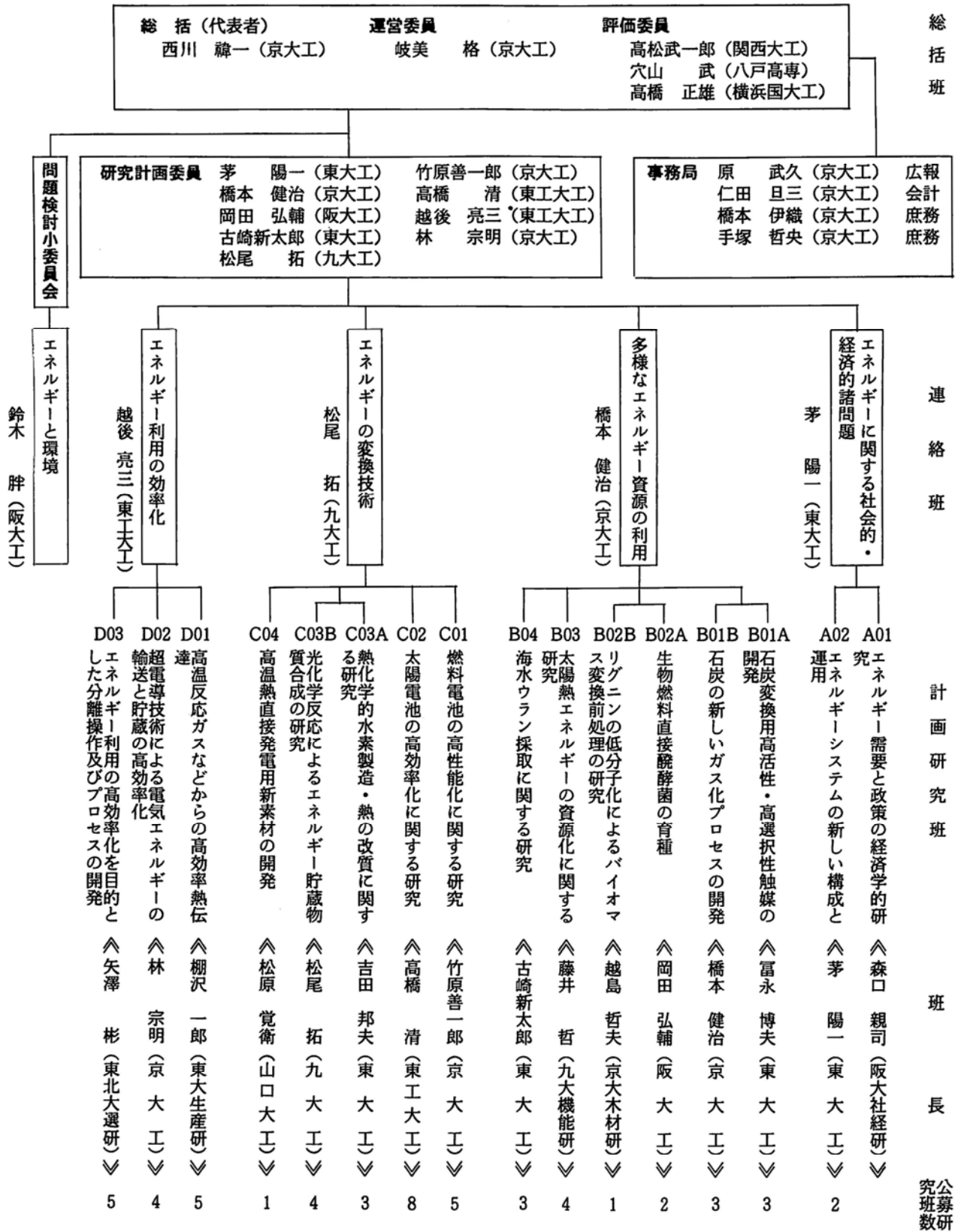


図-1 研究組織の概要

エネルギー・資源、9巻、5号 (1988)より。なお、エネルギーに関する重点領域研究は、このあと「エクセルギー再生産の学理、研究代表者：吉田邦夫東大教授 (1993-1997)、堤敦司東大助教授 (1998)」が続きましたが、それが最後となりました。